○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時００分）

◇　佐　藤　作　行　君

○議長（稲葉昭宏君）　一般質問を続けます。

通告順位３番、佐藤作行君。

（３番　佐藤作行君　登壇）

○３番（佐藤作行君）　通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

私が町長にお尋ねしたいことは、人口減少対策についてでございます。①第５次総合計画において目標人口を 7000 人と設定しましたが、その理由と意味・意図はどう考えているのかお尋ねいたします。

②最終年度における想定 6234 人と 7000 人の差はどのような施策で埋めたいと思っているのかであります。

２番目として、特別養護老人ホームの待機老人対策についてであります。①５月 24 日付の伊豆新聞におきまして、当町の特養入所希望者が実数で 51 人、必要性が高い者７人との掲載がありましたが、この数は正しいのかどうかお伺いいたします。

２点目としまして、今後年々増加が予想される特別養護老人ホームの待機者、５年後、10 年後の想定希望者数はいかようになるのかお尋ねいたします。

３番に、この２番に対する対策、それに対する施策をお伺いいたします。

次に、３番目として、子育て支援についてでございます。１番として、子ども医療費助成について、当町の制度はどうなっているのか、また利用状況はどうなっていますか。お尋ねいたします。

２番として、他町村との比較面はどうなっているのか。入院・通院・年齢・所得制限そのほかについてお伺いいたします。

３番目として、今後の取り組みと改善の意思はあるのかどうかをお尋ねします。

以上で壇上からの質問を終わります。

○町長（齋藤文彦君）　佐藤作行議員の一般質問にお答えします。

１．人口減少対策について。①「第５次総合計画において目標人口 7000 人と設定したが、その理由と意味・意図は」についてであります。

第５次総合計画の最終年度である平成 34 年度の人口は、コーホート法で計算すると、6243 人と予測され、平成 22 年の国勢調査人口 7653 人から 1410 人（18.4 パーセント）と大幅な減となっております。

今後のまちづくりを進めていく上では、一定の人口を維持していくことが、まちの活性化には必要不可欠でありますので、あらゆる分野において人口減の抑制を図る施策を展開し、最終年度の目指すべき数値目標として 7000 人とさせていただいたところです。

②「最終年度における想定（6243 人）との差（757 人）はどのような施策で埋めたいと思って

いるのか」についてであります。

町では、平成34年度の目標数値である7000人を目指し、総合計画には平成25年度から平成29年度までの前半の５年間で３つの重点プロジェクトを掲げ、取り組んでおります。プロジェクトの内容につきましては、高柳議員の一般質問でも一部御回答させていただいておりますが、「光り輝く人づくり」プロジェクトの中で、町外から人を呼び込むために、これまでの田舎暮らし応援ツアーや耕作放棄地の情報提供に加えて、６月より空き家バンク制度を創設し、都市住民への情報を提供してまいります。

「地域の魅力・資源活用」プロジェクトの中では、青年就農交付金の活用等による新規就農者や農業後継者の育成、農林漁業・商工業・観光業が連携した６次産業化の推進、「全町まるごとふるさと自然体験学校」によるグリーンツーリズムの推進を通じて、これらに携わる人を増やしてまいりたいと考えております。

なお、出生数を維持するため、安心して子育てができる環境づくりを図ってまいりたいと考えております。

これら３つの重点プロジェクトはもとより様々な施策を展開することにより、人口減に歯止めをかけたいと考えております。

２．特別養護老人ホーム待機老人対策について。①「５月24日付伊豆新聞において、当町の特養入所希望者数が実数で51人、必要性が高い者７人との記載があったがこの数字は正しいのか」についてであります。

５月24日に公表された特別養護老人ホーム入所希望者数については静岡県が県内にある全特養施設に申込み者を報告させ、その内容を市町に通知し、重複申込み、死亡及びすでに他の施設に入所した方を控除した数で、精度の高い数値になっています。

入所希望者数が51人となっていますが、この内訳は、老人保健施設や有料老人ホーム等に入所しているけれども特養に移りたい方が20人、病院に入院中の方が９人、短期入所と在宅介護を併せて利用している方が13人で、自宅で特養の空きを待つ待機者は９人です。

また、これらの中で必要性の高い方は７人となっていますが、平成24年度調査時とほぼ同じ人数で、この傾向は当分続くと思われます。

②「今後、年々増加が予想されるが、５年、10年後の想定希望者数は」についてであります。

松崎町の介護認定者数は年々増加していますが、要支援の方の増加が主で、入所することが適当と思われる要介護状態３以上の方はこの数年ほぼ一定です。

また特別養護老人ホームへの待機者もあまり変動がありませんので、当面の間は、今の状態と大きく変わることはないと思います。

しかし、入所施設は町内だけでなく、西伊豆町等の施設において入所者が減少し、空いた分に松崎町の方が入所することもありますし、老人保健施設、介護療養施設、グループホーム、老人ホームなどの状況により変化しますので、施設サービス全体を把握していきたいと思います。

③「②に対する対策と施策は」についてであります。

特養に入所することは重度の介護状態になることで、本人にとっても、家族にとってもまた介護保険会計にとっても喜ばしいことではなく、仮に１人が入所した場合、年間で約300万円

を介護会計で負担することとなります。

健康福祉課の存在意義は、特定健診やがん検診をはじめとする各種の健康対策事業や、介護予防事業を実施することによりすべての方に元気に暮らしていただくことであり、今後もその姿勢は変わりません。

ただ行政がいくら力をいれても、住民一人ひとりが自分の健康に対して無関心であれば脳梗塞、ガンなどの発症が増加し、それに伴い要介護者も増加します。

町としては健康に関する啓発や事業を続けることにより、健康に関する意識を向上させ、町民が病気や要介護にならないよう努力していくことが待機者を少なくする対策であり施策であると考えています。

３．子育て支援について。①「子ども医療費助成について、当町の制度はどうなっているか、利用状況は」についてであります。

こども医療費助成については、平成 20 年に 500 円の自己負担廃止、平成 21 年に所得制限廃止、平成 22 年から助成対象を中学３年生まで拡大し、現在に至っております。

制度についての周知も図られており、対象になる方はすべてこの制度を利用しており、町の助成額は平成 22 年度 934 万 8000 円、平成 23 年度 1559 万円、平成 24 年度は 1623 万円になる見込みでございます。

②「他町村との比較面はどうか。「通院」、「入院」、「年齢」、「所得制限」他」についてであります。

各種制度を制定する場合、静岡県内の他市町の状況を参考にして、ほぼ同じ内容となるよう制定していますが、その後各市町の事情により変化します。

子ども医療費につきましても、自己負担金、対象年齢、食事助成等の点が市町によって異なっております。

入院の場合では、自己負担金については、県内 14 の市町で１日 500 円、当町を含む 21 の市町が無料です。

対象年齢については、高校３年生までが２市町、小学校６年生までが２町、未就学までが２町で、当町を含む 29 の市町が中学３年生になっています。

食事助成については、15 の市町が助成し、当町を含む 20 の市町が助成をしておりません。

また通院の場合でも同じような内容ですが、所得制限に関しては入院、通院ともすべての市町が廃止をしています。

③「今後の取組みと改善の意思は」についてであります。

この制度により子育て世帯の経済的負担は減り、少子高齢化対策としては有効な施策でありますし、なによりも子供が健康に成長することは町にとって大切なことです。

今後の取り組みについてですが、他市町と比較しても大きな差はありませんので当面は改正するつもりはありませんが、手続きなどで改善する点があればその都度改めたいと思います。

また、制度の発足時に、無料ということで夜間受診や安易な受診の増加があるのではないかと懸念されましたが、今のところ特にそのような兆候もなく一安心しているところですが、重複受診や、安易な通院が多くなると、制度の存続が危うくなることもありますので、適正利用に

ついて引き続きお願いをしてまいります。

以上でございます。

○３番（佐藤作行君）　これより一問一答形式でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君）　許可いたします。

○３番（佐藤作行君）　はじめの人口減少対策についてお伺いいたします。

この第５次総合計画によりますと、人口減少の対策は町長の話によると観光の振興、農業あるいは漁業の振興、商工業の振興、地域資源の活用によって減少を食い止めて 7000 人の規模の町を維持したいという考え方のようであります。

町長にそこでお伺いしますが、この施策を組み合わせることによって 7000 人の人口を維持していきたいという考え方のようですが、これで人口の減少を食い止められると思っているのかどうか、ちょっとお伺いします。

○町長（齋藤文彦君）　一応数値目標として 7000 人を上げているわけですけれども、これを維持するのは非常に大変なことだと思いますけれども、これを目標として町のあらゆる力を結集して、この 7000 人を維持するために頑張っていきたいと思っています。

○３番（佐藤作行君）　それでは、別個にお伺いしたいと思いますが、観光事業ですね。これに対しては、町長はいろいろ心を砕いて予算の配分も充分している。あるいはいろんな施策も打っていることなんですが、あと、商工業の振興あるいは農林水産業の振興あるいは林業というような方向についてはどのような柱をもってやっていこうと思っているのか、そこらをちょっとお伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君）　商工会も非常に会員の数が減って、藤井要議員の時にもありましたけれども、会員数が 380 というような非常に厳しいというようなことがあるわけですけれども、今度商工会が特産品館の所を俳句の交流館としてうまく活用していきたいと、そして、松崎にお客さんを流したいというようなことをやっていますので、非常にこれはいいことではないかと思って、ぜひ協力していきたいと思っています。

また、町の方でもいまジオパーク、ジオパークと騒がれていますけれども、中瀬邸の所にビジターセンターができるということになりますと、お客さんの流れが観光協会の方から流れて、時計台を通って、町中に流れれば非常に活性化するのではないかなと思っています。

農業の方ではいろいろたくさんやっていますけれども、それは担当課長の方から説明します。

○産業建設課長（山本秀樹君）　いまお話があったとおり、農業の方につきましては、農業者個人に対するいろんな対策が多いわけです。例えば、青年就農交付金とか、それから、後継者に対する交付金であるとか、いろんな交付金があります。そういう中で、活用実績はどうかという形でみていきますと、対象が１人であったりとか、そういうような状況でなかなか農業だけの面でみれば、いま厳しいような数字になっています。ただ、農業で生業として生活ならしめるためには、販路・・、売って利益にならなければいけないというようなことがありますので、これは先ほどの答弁のあったとおり、６次産業化とか、観光とかいろんな業種と結びついた中で生業として成り立つような形を模索していかなければならないのかなというような感じがしております。

○３番（佐藤作行君）　ただいま課長の方から説明がありましたが、この農林水産業の後継者対策で、個人で農業をやりたいなんて方に補助金なんかを出してやっているわけですが、１人とか２人とか該当者がいるようですが、過去数年間そういうのをやってきて、松崎町に定着してくれればその甲斐もあると思うんですが、過去においての該当者の松崎町にどのくらい定着しているのか、あるいは他町村に転出しているのか、そこらをちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君）　佐藤君に申し上げます。もう少し大きい声でお願いいたします。

○産業建設課長（山本秀樹君）　定着度の関係ですが、一応この事業を受けた方々につきましては、今現在頑張っていただいております。ただ、人数がどのくらいかと言えば、片手に余る程度というようなことでございます。

ただ、そういう方々が家族で来た方もいらっしゃいますし、例えば、来てこの後結婚される方もいるかもしれませんが、そういう方の中でそれぞれその家族構成が少しでも大きくなればその分増加には寄与したのかなというようなことにもなろうかと思います。

いずれにしても、そういう志を持った方々が希望を持ってやれるようなバックアップだけは続けていきたいなと考えております。

○町長（齋藤文彦君）　松崎町では松崎町農業後継者対策奨励金とか、青年就農給付金、農地活用条件整備対策事業助成とかをやっているわけですけれども、課長が答弁したとおり農業というのは、農業をやってからすぐ生活ができるというのがなかなか非常に難しいわけで、遊びと言ったらおかしいですけれど、楽しみながらやるというんだったらなかなかいいと思いますけれども、なかなかこれで生活をするというのは非常に難しいように思っています。

私もいろいろ農業をやっている方を見ていますけれども、本当によそから来て農業で生活している人はほとんど、数えるほどもいない、あとはアルバイトをしながらやっているというようなことですので、農業を続けていくことは非常に難しいことだなと私は思っています。

○３番（佐藤作行君）　それでは、その次の特別養護老人ホームの方へ移りたいと思います。

先日、福祉協議会の理事会がありまして、私も充て職で議会の方から出席させてもらったわけですが、その場で必要性が高くて入所できない方が松崎町で７人しかいないということで大変町の福祉行政は、松崎町の場合は上手にいっているのかなというような声が結構聞かれたわけですが、そこで、この質問をしたわけなんですが、町長の答弁ですと、大体近辺で推移しているということでありますが、これで７人いるという考え方をする方と７人しかいないのかという考え方をする人がいると思いますが、町長はこの数字に対しては、どのように考えているのかちょっとお伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君）　非常に難しい問題ですけれども、多いと言えば多い、少ないと言えば少ないということが言えるわけですけれども、各市町もこのような数字ですので、このくらいあるのかなというような感じでございます。

○３番（佐藤作行君）　そういうことだそうですが、これは、新聞なんかでもよく載っているように、松崎町においてはずっと今のところ横ばいできているというようなことなんですが、新聞なんかの記事を結構見ていますと、これから団塊の世代が後期高齢者 75 歳に向けてこれから丁度 10 年になるわけなんですが、大幅な入所希望者あるいは要介護認定の高い方が増えてくる

んじゃないかという危惧の記事なんかが多いわけなんですが、そこらに対してはどのように考えているか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君）　私もそのように感じていたわけですけれども、担当者に言わせると、そのようなことではないというようなことがありますので、担当課長の方から答えていただきます。

○健康福祉課長（高木和彦君）　若干細かい数字も入ってきますけれども、この数字というのは余り変動がありませんで、22年の時の待機者が12人、23年度が11人、24年が８人で、今回25年が７人ということです。

この規模というのは、静岡県をみますと、全体的に足らなくなると思います。というのは、地区によって、この施設の定員が少ない所があります。

例えば、熱海なんかですと、100人あたりの定員数が1.2くらいですけれども、賀茂郡のこちらの方については、1.75で県の平均より若干上回っているようです。

ですから、こういうことにつきましては、各地区ごとに細かくみていくということと、特養以外に介護老人のところというのはグループホームですとか、老健であるとかいろいろな施設がありますので、全体の施設を見て、待機者ですとか、そういうのを推計していくのがいいのではないかと思っています。

○３番（佐藤作行君）　そうすると、ほかの老人施設等々をトータルで考えて、横ばいでいくんじゃないかという話なんですが、ほかの老人施設なんかについてはいかがなんでしょうか。増やす必要があるのかどうか、ちょっとそこらをお伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君）　介護老人福祉施設、これは特養になるわけですけれども、松崎町と西伊豆町と合せて135、そして、下田と南伊豆が210あります。

それで、介護老人保健施設、これは老健になるわけですけれども、これが松崎町と西伊豆町を合せて50、そして、下田市と南伊豆を合せて170、それで、グループホームは、これは西伊豆町に18ありますけれども、このようなことになっています。

だから、先ほど質問に答えたわけですけれども、老人保健施設、介護療養施設、グループホーム、老人ホームなどの状況の変化によりますけれども、施設サービス全体を把握してやっていきたいなと思っているところでございます。

○３番（佐藤作行君）　そうすると、大幅な増設とか、ベッド数の増加とかというのは、これから先あまり必要じゃないというふうに考えているのかどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君）　それは、考えていく必要があると思います。賀茂郡でそれぞれ皆さんで話し合っていく必要があると思っています。

ただ、この前新聞に載りました東京の杉並区が南伊豆町に特養整備うんぬんという話がありました時に、佐藤議員が来てずっと話し合ったわけですけれども、私はこれがありまして南伊豆の新しくなった町長といろいろと話をしているところでございます。

この新聞報道によると介護保険制度では特養は自治体が地元に整備するのが原則だけれども、前例のない域外整備の実現の可能性を図ってきたと、これがうまく動き出しそうだと、それで、入所者の保険料などで南伊豆町や県に医療負担が発生しないことが大前提で、町のお年寄

りも入所できる仕組みを整える、町の地域振興にもつながる。職員に町民を採用したり、入居者の食事に地元食材を活用したりすることも確認したと、このように書いてあります。

また、県の方も健康長寿日本一を掲げる県としては、何よりメリットがあると、また、南伊豆町の方もサービスを受けられる場が増えることはメリットが大きい、地元の介護産業など雇用創出や地域産業の効果に期待すると好意的に受け止めていると、このようなことがあって、これがあれば本当にいいことだらけなんですけれども、南伊豆の町長と話をしている時に、これはやっぱり国との折衝が非常に大変だということで、県の方に中に入ってもらってやっていると、それで、松崎町もこれを注目したらどうでしょうかというようなことがありますので、そのようなことを注視しながら、私は考えているところでございます。

○３番（佐藤作行君）　いまちょっと南伊豆の杉並区ですか、そこの養護老人ホームを南伊豆町に設置するという話が出ていまして、この間町長ともちょっとその話をしたわけなんですが、そうすると、町長としては、前向きに検討していくというような考え方でよろしいんでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　前向きにと言いますか、注視していきたいと思っています。

○３番（佐藤作行君）　そうすると、そこらも注視しながら、条件によっては受け入れてもいいというような、そのくらいのところですか。

○町長（齋藤文彦君）　そういうことは軽々しく言えないわけですけれども、南伊豆の町長がいろいろ注目してくださいと、何かいろいろあったら話をしますよということがありますので、そういうことで注視していきたいということでございます。

○３番（佐藤作行君）　それでは、次に移りたいと思います。

子ども医療費の助成についていろいろ町長に質問したわけなんですが、私の調べたところによりますと、松崎町は財政基盤の割にはしっかりやられているんじゃないかと自分では思っているわけなんですが、西伊豆町が隣の町にあたるわけなんですが、そこでは通院・入院、こども医療の助成について高校生まで無料になっているということなんですが、そこらに対しては、町長はどんなふうに考えているでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　どうしてもそうなると、町町間で競争になるわけですけれども、私は中学生までが通院・入院無料ということで、これで充分だなと私は今のところ思っています。

○３番（佐藤作行君）　静岡県で高校生まで無償にしているというところは西伊豆町だけだということで、そこらはレベル以上になっているのかな、あるいは全国的に見ると、未就学児あるいは小学生までというようなところ、あるいは義務教育期間までというようなところが多くて、こんなところかなというような感じではいます。

財政状況も厳しいということで、理解できるわけですが、財政状況が改善すればやる用意はあるのかどうか、ちょっとお伺いします。

○町長（齋藤文彦君）　仮定のことはなかなか話せないわけですけれども、私は今のままで松崎町は充分なのではないかと思っているところでございます。

○３番（佐藤作行君）　大体聞きたいことは聞きましたので、少し早いですが、終了にしたいと思います。

では、終了いたします。

○議長（稲葉昭宏君）　以上で佐藤作行君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後　１時３５分）